



学校便り  
No. 2

# 万里一空

令和6年4月22日(月)

文責：池田 誠

新学期が始まり2週間ほど経ちましたが、お子様の様子はいかがでしょうか。新しいクラスや教室、新しい担任の先生など環境が変わり、まだ少し緊張しているのではないかと思います。さて、本校では校訓(なかよく かしく たくましく)を基にして、平成6年度の学校教育目標を作成しました。1年間下記の目標を具現化できるよう、職員一丸となって業務に取り組んでまいります。

【学校教育目標】

## 他とよりよく つながり かかわり すっきり 生きる武蔵っ子の育成 ～人と人の間を大切に～

**つながり**は、校訓の**なかよく**とリンクしています。人とのつながりの中で「思いやり」「自己有用感」「共感」「協働」「感謝」の心を育みたいと考えます。

**かかわり**は、校訓の**かしく**とリンクしています。児童の主体的な対話や話し合い、体験活動がある授業を通して、学びに向かう姿勢(興味・関心・意欲)を醸成しながら確かな学力を育みたいと考えます。

**すっきり**は、校訓の**たくましく**とリンクしています。児童一人一人の理解をしっかりと行い、課題に対して適切に対応していくことで、すっきりとした心と体を育てていきたいと考えます。

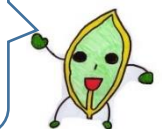
副題の「人と人の間を大切に」に関してですが、人と人の間には言葉による気持ちの繋がりがありません。例えば挨拶や返事にしても、自分の存在感や相手に対する敬意を表す言葉であり、元気で朗らかな挨拶はお互いに気持ちがいいものです。人間のストレスの9割以上が対人関係だと言われています。だからといって対人関係のない人生では幸福感は生まれません。人は他と繋がることで、信頼、共感、思いやり、自己理解、自己有用感、生命尊重等の重要な要素を学びます。そして、これらの要素を意識して行動することで、より豊かな人間関係を築き、心の健康と幸福感を向上させていくことができるのではないのでしょうか。この対人関係の基盤にあるのが、人と人にある言葉による気持ちの繋がり、いわゆる望ましいコミュニケーションです。学校生活の様々な場面で「あいさつ」「返事」「対話」「会話」「話し合い」「つぶやき」等を大切に意識を高め、同時にコミュニケーション能力の向上を図ることができればと思います。そうすることで、学校教育目標「他とよりよく つながり かかわり すっきり 生きる武蔵っ子の育成」を推進していけると考えています。

もちろん、学校教育目標は子どもたちだけのために立てた目標ではありません。この目標を具現化していくために様々な取組を行う教職員も目標を意識しないといけません。**教職員は子どもたちにとって保護者同様一番身近な大人のモデルです。**ですから、教職員は常に人権感覚を磨き(人とつながり)、協働し(同僚とかかわり)、元気に明るく主体的に動く(心も体もすっきりした)姿を子どもたちに見せないといけません。このことは、ことあるごとに職員に啓発していくつもりです。

そして、最終的には次のような学校を理想においています。

- ◎ 子どもが主役の学校
- ◎ 子どもも教職員も居心地がよい学校
- ◎ 保護者や地域から信頼される学校

本年度も本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。



楽しい  
歓迎遠足  
でした



少し暑かったけど、6年生のお兄さんお姉さんと一緒に遊んだよ。